

研究發表事項(江幡)

用 授 教	具
糊豆 撫糊 粘土 裁 大 大 大 大 大 あ 刷 貯ル 庖 裁 型 型 型 型 型 げ 刷 藏押 定 裁 字 ン 角 定 鍋 箒 毛 毛 器 切 刀 規 板 規 ス 規 三〇〇 一七〇 一六〇 一五〇 一〇〇 六〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 一 二 一 一 二 一 一 一 一 一 一 三〇〇 二七五 二五〇 三〇〇 一〇〇 一六〇 一五〇 一〇〇 六〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 八〇〇 五五〇 三五〇 四〇〇 三〇〇 三二五 七五〇 五〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇	裏名仕青大 プゴホ 倉上村 ムク 押砥砥砥砥 鎌板打 四〇〇 三五〇 二〇〇 一五〇 七五〇 五〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 二〇〇 一〇〇 二〇〇 三〇〇 六〇〇 一〇〇 八〇〇 五五〇 三五〇 四〇〇 三〇〇 三二五 七五〇 五〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

工	用
砧型 九筒返糊糊目正裁洗タ内野硝心酒吹曲油 直色 外 子 庖ガ直書平 精 げ 定用 徑 面 定 木形し竹篋板打規刀鍋ネ規臺盤金燈管棒差 三五〇 一七五 二〇〇 五〇〇 六一五 五〇〇 三五〇 二二五 一二〇 八〇〇 九〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 二 二 二 二 五 五 五 五 五 二 二 三 一 一 一 二 一 一 二 一 一 二 一 一	六〇〇 一〇〇 三五〇 七五〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 四五〇 五〇〇 三五〇 四〇〇 二五〇 一六〇 一二〇 一〇〇 九〇〇 〇〇〇 〇〇〇 手工にて製作す 全 全 手工にて製作す 全 理科と兼用

備考

- 1、完全要求普通要求についても記載すべき處であるが、かへつて世人の疑惑する基となることをおそれるばかりでなく、現在の處これらの要求に應ずることは不可能であると思つて之を略すことにしたのである。
- 2、設備の順位は計畫年數に依つて定まるべきであつて本設計は即ち三年の豫定である。
- 3、工具は破損し易いから、應急の場合貸與することが出来る様に豫備品を貯へて置く必要があるから之を見込んで置かなければならない。
- 4、經費に餘裕のある場合又は本表に掲げた工具が完成した場合には簡易機械其他について備

細工	品目	數量	單價	合計	備考

- へなければならぬものゝあることは勿論である。
- 5、工具に依つては手工により柄を造るとか臺を造るとかすれば割合に安價に出来るものがある
- 第二 經常費
- 總計金六拾四圓五拾錢
- 内 譯
- 1、金拾五圓 工具補充及修理費
 - 2、金四拾九圓五拾錢 一ケ年間材料費
- (但し兒童自辨の分は別表)
- 注意 本項2は次の如き要領のもとに記載すべきであるが紙面の都合上本校が五年間に要した經費の平均額を掲げることにする

- 豆細工 三圓五十錢
粘土細工 五圓
色紙細工 五圓
厚紙細工 二圓五十錢
竹木細工 三圓
糸布片細工 三圓五拾錢

第三 兒童の經費

- 木工 拾圓
金工 拾圓
藥工 四圓
雜品 三圓
計 四拾九圓五拾錢

1、工具 (數字は代價見積(厘單位)及購求すべき學年●は必要とする學年)

工具	學年		科	高等科	備考
	男	女			
鉋	120	●	常科	●	家庭用又は裁縫用と兼用 他教科の教授に於ても使用す 古布を利用すれば一層可なり 圖畫と兼用 他教科の教授に於ても使用す 圖畫と兼用
曲布小刀	30	●	常科	●	
三角定規	●	●	常科	●	
切出小刀	●	●	常科	●	
コンパス	●	●	常科	●	
手工箱(袋)	●	●	常科	●	
平鉋(一寸六分)	●	●	常科	●	
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		
			常科		

研究發表事項(江幡)

計	手 工 帳	小 刷 毛	編 針 (二種)	噺 切	烏 口	叩 鑿 (四分)	突 鑿 (二分)	鋸 (兩及七寸)
200	50							
110	●							
430	●							
5	●							
8	●							
200	●		150					
750	●							
250	●	120	●	80				
1280	●				300	180	150	06
130	●	80	●	●				
5	●				●	●	●	●
5	●	●	●	●	●			
3580								

備考

- 1、或工具を購求しない學年でその工具を必要な場合は學校から貸與するものとす
- 2、此處に掲げた工具の外に兒童獨用工具として必要なものもあるが木工或は金工の應用で造り得るものは除くことにした

2、材料

兒童一人分 (厘單位)

細工	學年		科	備考
	男	女		
豆 細 工	1	1	尋 常 科	
	2	2		
	3	3		
	4	4		
	5	5		
	5	5		
	6	6	高 等 科	
	6	6		
	1	1		
	1	1		
	2	2		
	2	2		

計	製 金 工	木 工	木 竹 金 工	糸 布 片 細 工	竹 木 細 工	厚 紙 工	色 紙 工	粘 土 工	豆 細 工
125						60	20	45	
135					55	60	20		
140					60	50	30		
150					70	50	30		
180				180					
260			200	60					
300		300							
320		100	220						
1000	150	250	600						
500	4	100	360						
1170	120	750	300						
650	5	100	500						

第三章 結論

以上は設備の概要であるがこの外に教授上其の他の關係等に連絡して手工教室の清潔整頓工具の入手整理檢閱補充貸與材料の貯藏給與等についても一定した規定のもとに當番を置き或は教師自ら監督する等相當に設備上よりも要求しなければならぬ點が多いがこれは漸時他にゆつることとする
次に設備上相當の研究工夫計畫等をするに否とに依

研究發表事項 (江幡)

つてそれが形の上に表はるゝ時に於て大なる逕庭が生ずるものであると云ふことを忘れてはならぬと思ふ
而し内容の整はないのにいたつらに形式上のことばかりを云々すべきではないと思ふ
かゝる輕率な考のもとに例へ完全な設備をした處で其の利用が充分に行かなくてかへつて世人の非難の標的となることはまぬかれない

それにしても特筆大書しなければならぬものは教師に自信あり手腕あり熱心あり而して努力するならば少額の経費も有効に使用し得少数の設備でも或程度までは相當の効果を上げることが出来ること云ふことである

時恰も好し小學校令—改正を見る從來は往々本科教授の教育的價值あるを認め乍ら法令上の支障のため

躊躇せざるの止むなき場合なかつたでもないがこれらの總ては取り去られ全く實際家の意見の貫徹した今日本科教授の振興を希望すると共に最も経便有効に其の原動力である教師に本科に對する確たる自信を得るまでの研究乃至は手腕をつくるの道を開くのが目下の急務であることを一言して本研究の結論とする。 終り。

二九、手工科教授と其の設備

筑波郡田水山尋常高等小學校長

野村 誠

一

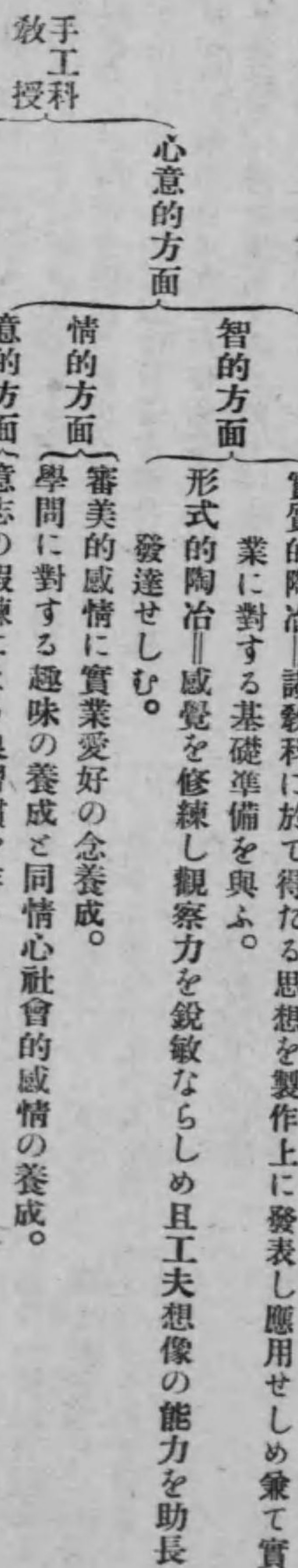
一、手工科教授

教則第十二條第一項に「手工は簡易なる物品を製作するの能を得しめ、勤勞を好むの習慣を養ふを以て要旨とす」とあり。即ち兒童の自發的活動性を利用し、以て彼等が將來の生活に必須なる心身の陶冶をなすを以て要件とし、兼て職業の基礎的準備をも與へんとするにあり。されば小學校に於ける手工は、教育的價值あらしめん爲めに、課する所のものにして、決して或る特殊

の職業に對して、其の豫備的修練を與ふるものにあらざるや明かなり。要するに、本科の主目的とする所は兒童をして而も簡易に日常の生活に必須なる一般的の物品は、人の手をからずして製作し得らるるの能を與へ、これと同時に眼と手とを練り、兼て身体をして意志の自由機關たらしめ、且つ彼等をして將來とるべき職業の基礎準備を與ふるにあり。次に本科の副目的とする所は、兒童の自發的活動性

を利用して簡易なる物品を製作せしむることによりて、各種工業に關する初歩の智識を授け、これと同時に諸種の感情の陶冶をなし、且勤勉・勞働・忍耐・秩序・精密・清潔・整頓等の良習慣を養成せんとするにありとす。尙これを心意的方面と身体的方面とより論ずれば即

ち心意的方面は更に智・情・意の三方面に分ち其の中心智的方面の價值は實質的と形式的との兩方面に分ちて考察することを得べし。又身体的方面は之を技能的・生理的の二方面より考究し、技能的方面の價值は更に之を實質的と形式的との兩方面に分ちて考察すること便利なり。



諸教科中本科と最も親密なる關係を有するものは、圖畫科なり、兩科共に相俟つにあらざれば、共に教授の目的を貫徹せんこと困難なり。故に一物品を構

研究發表事項 (野村)

成するに當りては、先づこれが圖案を作らしめ、而して構成し終らば再びこれを圖畫として表はさしむることに移むべし、尙本科の教材は、これを圖畫手本或は實物に求め、又圖畫科に於ては、手工科の教

材をとりて寫生の好材料となし、かくて兩者の關係を益々密接ならしめ、相俟ちて教育の効果を全からしめざるべからず。本科はひとり圖書科と密接の關係あるのみならず、他教科即ち算術科にありては長短・廣狹・角度等の觀念を與ふる場合と關聯し、又理科にありては自然物を始め種々なる物体をとり、これを實地に取扱はしめて其の性状を知覺せしめ、或は本科の材料を理科に供給すること等によりて理科と相關聯せしめ、相互相益する所を多からしむべく或は又本科の教授を地理・歴史の材料より取りて種々の模型を作らしめ、或は教授中修身科と關聯し、或は物品の製作によりて身体各部の運動をなさしめて体操科の一部を補充するが如し。

三、教授の方法

- (一) 模倣法 實物・標本・繪畫等を示し、これが製作の順序方法を説明し、教師先づ模範を示して後兒童をしてこれに模倣せしむるものなり。
- (二) 改作法 實物・標本・繪畫等を示し、これに一二の條件を附して改作せしむる方法なり。
- (三) 自作法 (1)、題目のみを提出して兒童の任意に

工夫製作せしむる方法。(2)、題目を與へずして悉く兒童の任意に工夫製作せしむる方法。(3)、或範圍を定めて兒童の任意工夫製作せしむる方法。(4)、既有觀念を總合し、これ等を應用して一物品を工夫構成せしむる方法

(四) 共作法 兒童數人或は教師と兒童又は全級合同して一物品を構成せしむる方法。

何れにしても教授の効果を大ならしむるには、先づ教師自身が該科に興味をもち、必ず一度は實驗したる後たらざるべからざるなり。蓋し教授者のこの科に對する能率を高むるは最も緊要なるものと信ずるものなり。

四、教授上の注意

手工科教授に於ては特に準備に注意せざるべからず教授前の準備と教授後の取片付とは共に大切なる要なり、教授中に於て必ず工具の構造、使用法、材料の品類、性質等を授くべきことは、最も大切なることとして、又最も教師の怠り易きことに屬す。故に教授者は製作に附帶して、隨時これ等を授くることを忘るべからず。

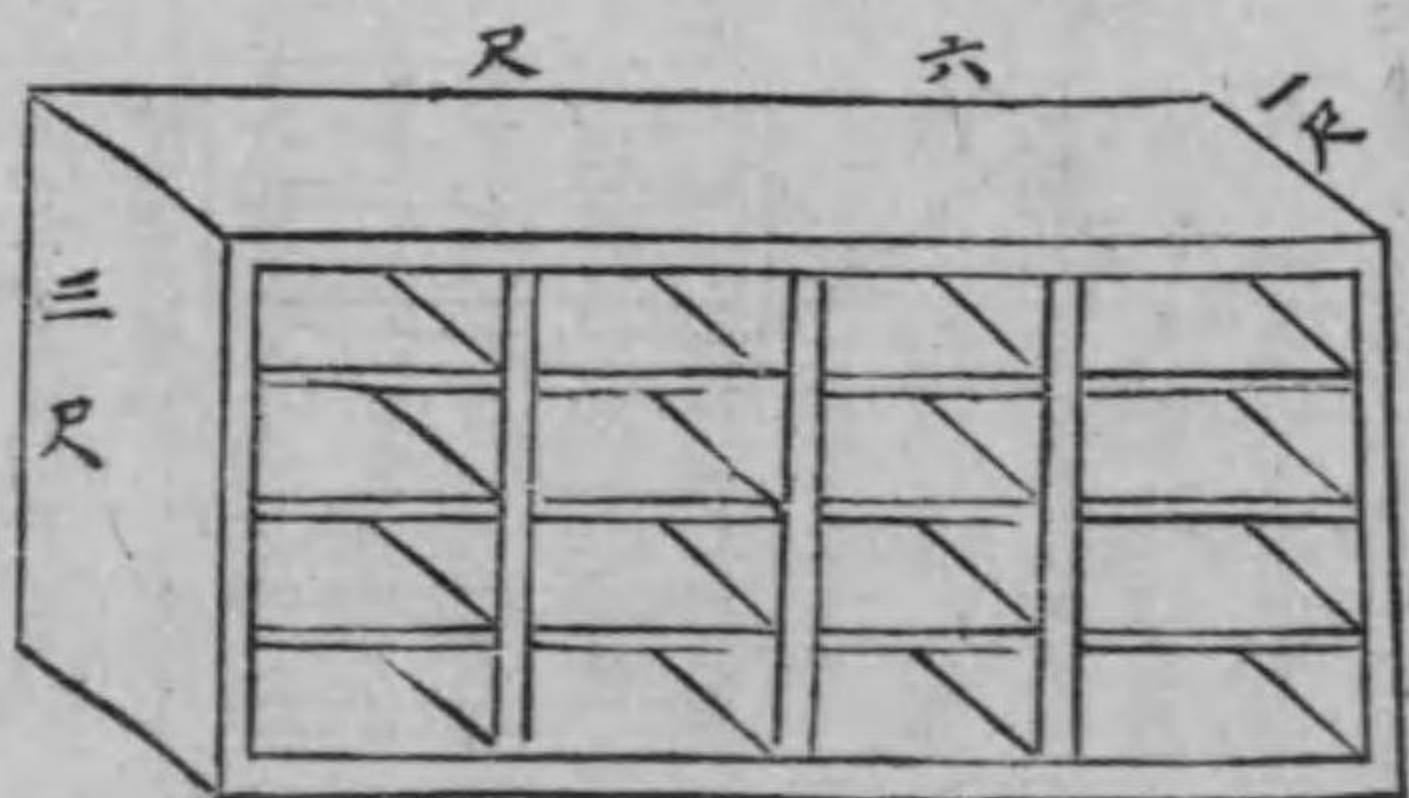
又兒童は、みだりに製作を急ぐものなれば注意すべし。教師の示範説明を與へたる後に於ては、一二回復演せしめ、充分了解せしめたる後に於て製作にかからしむべし。亦製作中兒童は時々疑問を發することあり、此の際疑問の適當なるものには個人につき或は全体に對して解決を與ふるをよしとす。教師は兒童の製作中常に机間巡視して充分懇切に指導し決して兒童に代りてなすべからず、兒童はこれによりて依頼心を起し従つて本科の目的を達すること能はざればなり。

成績品は常に清潔を尊ばしむべし、出來上りたるものは取り上げて評語或は評點を附し、其の優良なるものは揭示し衆生に示し、其の他のものは返附して實用に便せしむべし、此際揭示したるものは後日返附するを要す。

五、手工科の設備

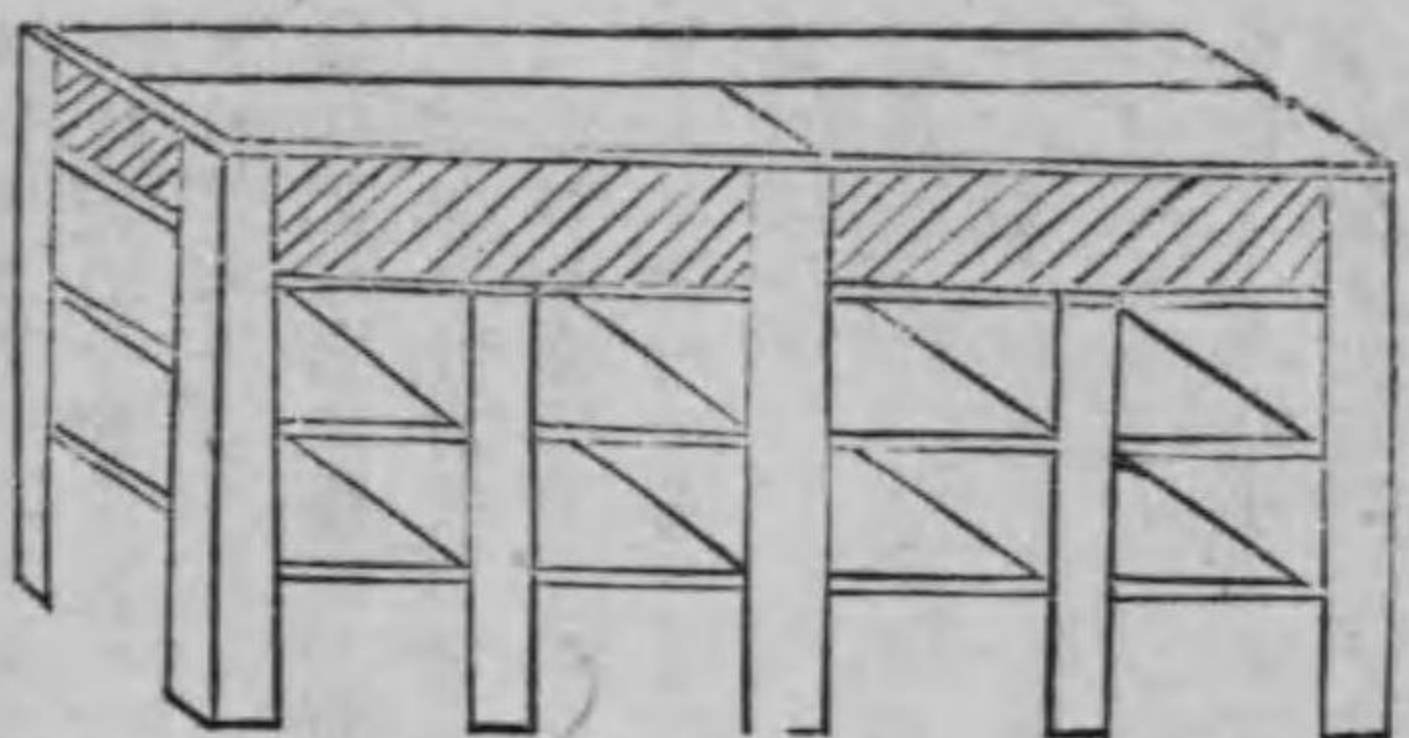
- (一) 教室
- 手工科の教授は木工と金工とを除けば、殆んど何れの細工も普通教室にて行ひ得べし、而して木工は廊下、金工は昇降口の土間等に於て行ふことを得べし

普通教室用棚 (1)

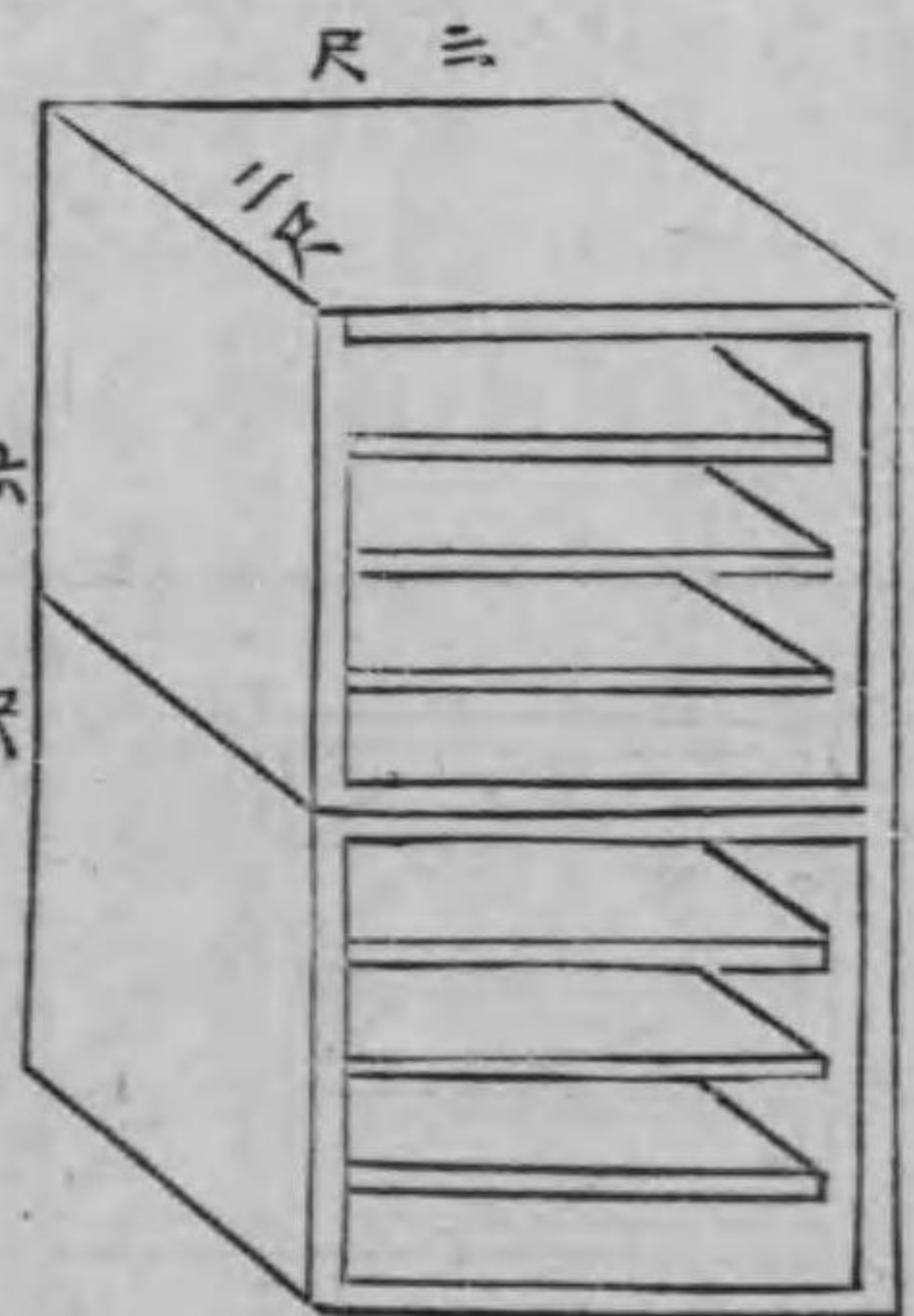


普通教室に於て手工を授くる場合は、各教室内又は廊下等の適當なる場所に、工具・材料・成績品等を入れ置く戸棚若しくは、棚を設けざるべからず。最も古机に少しく手入れを加へて裝置するも可なり。而して教室内に棚又は戸棚を設くる場合には、教壇の左右を最も便利なりとす。

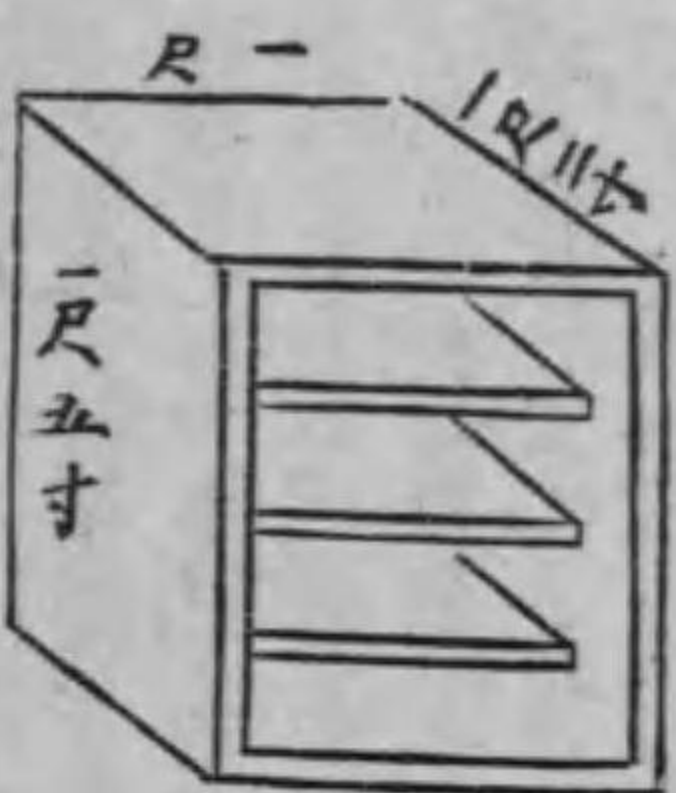
横六尺、縦一尺、高さ三尺
段板は成るべく自由に貫き刺し得る構造たらしむべし。
或は普通のつり棚にても可なり、この場合には數段にして順次上をせまく作るべきが都合よろし。



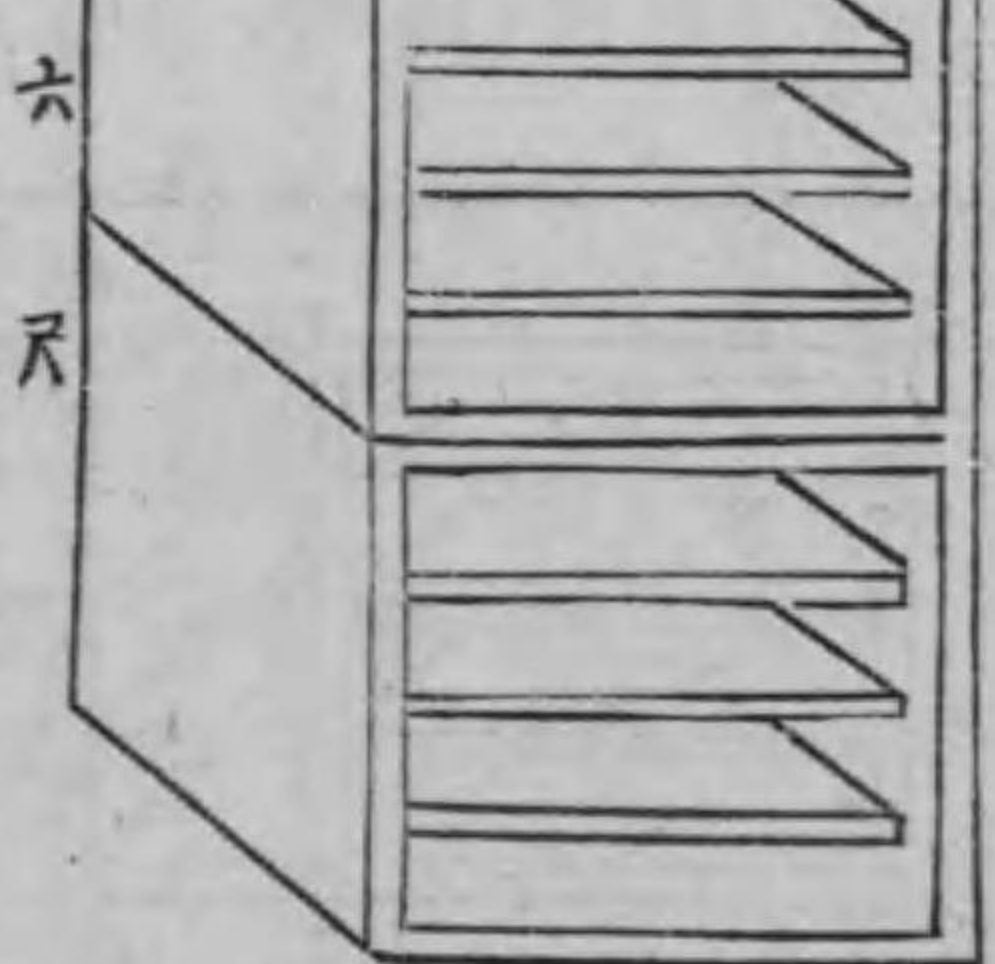
(2)、机を代用する場合には下部に段板を設けて材料及び工具の入れ場とし、上部の内容は未成品を入れる、に使用す。



(3)、この戸棚は上段を成績品標本入れとし下段を工具材料入れとす、而して上段は硝子戸、下段は観音開板戸が都合よろし。



(4)、未成品入箱は粘土細工の場合に是非とも入用なり、この箱は成るべく空気の流通を妨ぐ様に作るべし。



(6)、砥石
荒砥。及物の刃を折りたる時に使用する。
大村砥。平素及物の切れ味悪しくなりし時、これにて荒砥ぎをなす。
青砥。大村砥にて研ぎたる後に研ぐものなり
合砥。廉價のものにて足る。

(二) 工具



(5)、及物研臺の大きさは任意なれども巾一尺五寸長さ三寸五分、後方の高さは、少しく高さが便利なり、内部の一隅に水流しの孔を設くべし、尚水入桶はこれに附属すべきものなれどもばけつにて代用し得らる。

(1)、児童用工具

児童用工具は諸教科の學用品と同様なれば、必ず各自に持たしむる方が適當なり。而れども鏡類以下は經費負擔の許すがぎり、児童に持たしむるは便利なれども、現下の状態に於ては數名の児童をして共通に用へしむる方、批難なからん。
色枚。十二オンスボール紙に色紙を貼付し、形は

研究發表事項(野村)

成るべく基本形を有するものたるべく、色は原色を最良とす。
尺度。五厘目まで刻みある一尺のもの、上級に至るまで使用し得るの便あり。
鉄。普通用のものにて可なり、唐鉄のあるものは成るべくこれを使用せしむ。
細工板。朴・檜等の如きもの、長さ一尺、巾七寸厚さ任意なれども五六分位を適當とす、亦松材ならば家庭にて得易からん。
篋。竹製のもの可なり、教授者により多少異なれども、切り篋、撫篋、ツキ篋等二三にて足るべし、竹細工の際これを作らしむ。
圓棒。細工板の巾より少しく長き方便なり、徑六七分、粘土を展ばすとき又厚紙を巻きて圓筒を作るときに使用せしむ。
染分紐。結び方の練習にのみこれを用ふ。
小刀。切り出し小刀、巾六分位のもの最も可とす柄に籐を巻かして使用せしむ。
裁定規。長さ一尺、巾一寸二分厚さ五六分堅木にて作りたるものを最良とす。

三角定規。六十度のものと、四十度のもの二枚、

大きさは六寸位が適當なり。

圓規。成るべく金屬製のものを用ひしむ、竹製は

不正確なればなり。

組針。ピンセット、何れも竹製にて可なり。

編針。釣針・棒針の二種必要なり、竹製にて充分

なり。

鋸類。數種入用なり、成る可く異りたるものを持

たしめて互に通せしむ。

鉋。中仕子と粗仕子との二通りにて可なり。

鋸。長さ七八寸乃至一尺位のものにして稍々身の

厚き兩齒鋸をよしとす。

鑿。一分・三分・五分と六七分のしのご鑿にて充分

なり。

木矩。正確なるものを作るに必要なるものなり。

野挽。並行線を引き薄板を割るに使ふて便利なり

金鋸。重さ二十乃至三十勿位のもの適當なり。

喰切。小さき針金類を切るときに使用するものなり。

火鉗。針金を曲げ板金を挟む等に便利なり。

けたるものにして鉋臺を直し、又は堅木を削るに使用する。

丸鉋。内丸と外丸との二種あり、五六分位のもの

を備ふれば可なり。

溝鉋。木材に溝を作るときに用ひらる。

隅鉋。溝の隅又は側面の如き處を削るに用ふ。

廻挽鋸。板を曲線形に挽く爲めに使用する。

畔挽鋸。溝を作るとき使用するものなれども、又

帶を作るにも使用し得て便利なり。

平丸鉋。堅木や竹材を削るに用ひて妙なり。

釘抜。普通のものに備ふれば可なり。

金砥。鉋の裏出しをなすときに使用する。

墨ツボ。普通のものにてよろし。

砥。荒砥・大村砥・青砥・仕上砥の四種類を備ふ。

木螺子廻。大小二本を備ふれば便利なり。

目立鋸。一二本備へざるべからず。

金切鋸。ブリッキ細工をなすに缺くべからざるもの

なり。

鐵砧。金工には是非必要なり。

白鐵鋸。ブリッキ細工に用ふ。

研究發表事項(野村)

(2) 共用工具

これは教師も児童も使用する道具にして、性質上學校に於て設備するを至當なりとす、各種の工具全部備ふるには多大の經費を要すべきものなれども、現今小學校に於ける主なる工具は大要次の如きものに充分ならん。

ボール切。拙者考案のものあり。

甕。粘土を貯藏するに用ふ、普通の水甕にてよろし、大小隨意なり。

未成品入箱。空氣の流通を院ぐ装置とせば、何れの形ても可ならん。

打抜。厚紙細工及金工のとき孔を打抜くに用ふ。

壺錐。木工及厚紙細工に使用する。

四ツ目錐及鼠齒錐。二ツとも木工竹細工等に使用する。

鉋。普通のものど竹割用のものと、二種必要なり

弦鋸。竹を挽き切るに使用する。

曲尺。普通の場合に使用せしむ。

剃小刀。主に圓孔を繰るに使用する。

臺直し鉋。普通の平鉋の身を殆んど直角に取り附

要するに、以上の工具にて共用工具は、學校にて揃ふべきが至當なれども、専用工具は各児童一個づつ、持たざれば教授を受くる事能はざるなり。併し今日の場合、手工科の價値が世間全体のもの特に児童の父兄には、遺憾ながら其の効果充分に認めらるるに至らず、随つて俄かにこの少からぬ工具費を負はしむる事は困難なり。故に今日の状況にては教授者の方が不便を忍び成るべく児童の家庭にあるものにて間に合せ、何時とはなく少しづつ揃へしむるを穩當といふべし。

六、手工科の材料

日常ありふれたる各種の材料を用ひしむること最も肝要なり。特に廢物の利用に務むべきことは、眞にこれ手工科教授の教育的價値ある所以なりとす。而して手工科教授に於ては材料の選擇頗る困難にして經費の如きに至りても又割合に多額に上るべきものあり、児童の任意に選擇せしむるが如きは最も注意すべき要件なり。

(一) 紙類。

半紙。色紙。何れも折紙・切り貫き等の細工に用ふ

馬糞紙。厚紙細工・綴帖細工・色板並等に使用せらる。

艶洋紙。模様洋紙。更紗紙。何れも厚紙細工の上貼。綴帖細工の表面貼等に用ふ。

(二) 竹類。

竹は農村に於て其の利用頗る多く、表皮滑かにして鉋削の要なく、縦割のまゝ直に使用することを得。又其の質堅、鞣内部空虚にして弾力に富み且湾曲するに適す。而して加工容易なるを以て、日用品等を製し得べく農村的手工科材料には最も適切なるものなり。

若竹。淡竹。孟宗竹。篠竹等普通のものを使用せしむ。

(三) 木材類。

木材の選擇は普通ありふれたるものを先にし、成るべく廣く之に接せしめ、其の性質・用途・産地・價格等を實地に比較研究せしむる必要あり。然れども細工は日常得易きものによるべきは前記に述べたる所なり。

杉。檜。鉋削の練習用として使用せしむ、檜には

四分六分あり。

朴。すべてのものを作るに適す、又着色にも好適なり。

松。手工用として不適當なれども、我が國の材木として廣く用ひらるゝものなれば、一通り使用せしむるか可なり。

桐。箱類を製するに用ふ質軟かにして加工容易なり。

揚楮。木釘を製するに必要ななり。

(四) 金屬類。

針金。手工用として普通に用ひらる。

ブリツキ。手工用として小判の薄口が便利なり、石油の空罐を代用せしむるも可なり。

白鐵。主に銅・眞鍮・錫・鉛・亞鉛・ブリツキ等を接合するに用ふ。

(五) 藥品及染料類。

アニリン染料。木工、竹細工、造花等の材料を染むるに用ふ。

硝酸及硫酸。木工、竹細工にては着色用、金工にては腐蝕劑として用ふ。

鹽酸。主にブリツキ等を接合する際に洗淨劑又は鹽化亞鉛液として之を用ふ。

重クロム酸加里。竹木の着色劑として使用せらる。

機械油。主に及物其他の金屬工具の錆留めとして用ひらる。

(六) 雜品類。

豆。褐色の豌豆が好適なり。

籐竹。青竹の節なきもの割り放し四角のもの却て

よろし。

粘土。普通の粘土を水箒して使用せば結構なり。

糊。生熟を用ふ、又小麥粉の粘性を去りて用ゆるも可なり。

膠。木工及綴帳細工に用ふ。

白蠟。木材の艶を出すに用ふ。

要するに材料はすべて共同購入法によるを最も經濟的とし其の都度必要に應じ分配交附して使用せしむべし。

三〇、手工科に對する私の經驗並に其の及省

茨城縣女子師範學校訓導

大内由之介

緒論

私は私等現在の職責上から考ひて研究すべき部面を擧げるなら第一に日々の教授其の事乃至それに關聯した事項についての攻究と反省とであらねばならぬいと信ずる。而して其の事は最も有價値で且つ便宜な方途であると思ふ。勿論各教科や専門科學の學術的研究の必要なことは言を俟たないけれ共それらは

研究發表事項 (大内)

私等の教授をより一層徹底させるが爲教育能率を一層増進せしむるがためと謂ふことを基礎とすべきであるを考ひたい(餘力ある特殊研究者は論外として)そしてよく私等は實際家だ経験家だと自負する事は多いが、眞實に經驗を積んだといふことには案外に力弱いことを私は常に反省する。それは毎日の仕事に對して眞の反省と工夫とに欠陥があるからである

と思ふ。

斯様な意味で私は本科に對する私自身の平素の反省の總括りの要点を發表して見やうと考ひた。然し乍ら自分の経験は誠に貧弱で衷心慚愧に絶えないけれども、そこに研究の或る意義がさゝやか乍らも閃いて居ることを信じたからである。そして各位の御批正を得たならば私自身としては、この上も無いよい學習となり又小さいながらも一個の實際家としての經驗發表の一端ともなるでは無からうかと考ひたのである。

本論

第一、私の本科に對する目的觀の反省

本科が他教科に比して未だ研究の新たであるがために従つて未解決の部面が多いが爲に、本科に對する目的觀は人に依つて相違がある様に窺はれる。日々の教授も研究工夫も各自の目的觀から派生するものであることは論を俟たないから私の経験も乃至反省も亦この目的觀の動搖によつて變革があつた筈である。依つてこれは最も重要なこと、信ずるから左に其の梗概を述べることにした。

一、私の目的研究に對する態度は悪かつた、以前私は目的論などは法令に規定されて居ることであつた。その解決の如きも教育學や各科教授法の本等に書かれてある、そんな事に苦心する必要はない、もつともつと重要な實際問題に對しての研究が緊要であること考ひて居つたがそれは非常な心得違ひであつたことを悟つた、少なくとも手工科に對しては悪かつた、私自身にとつては悪かつた。それは本科の目的觀は人によつて相違があつたから、又私自身の目的觀が甚だ不明瞭不確實であつたから。事實これがために細目編制に及んでも主義の一貫を缺いたとして何回も中途で變更するの止むなきに到つた愚を繰り返したから。教授法研究會などに臨んでも其の言ふところの時によつて矛盾のあつたことを強く反省するから。それで私は左の反省をして居る。

「如何に確定されて居るにしても目的の研究は最も確實にせねばならない、それでないで兎角枝葉に走つて眞の目的を逸することがある見識の不確立はまぬかれない、特に手工科に對しては必要である」

二、物品製作能の解釋が從來私は非常に狹義に解し

た随つてこの要求を幾分軽く見たがこれは大なる誤りであつたと思ふ。

從來私はこの能といふことは物品を製作するについての筋肉練習即ち技巧の陶冶、換言すれば手が器用になること、それ位に思つたがために本科が國民教育上にそれほごまでに重要とは考へられなかつたことは事實である。

現在私は次ぎの如くに反省して居る。

○物品製作の能力養成には次ぎの諸陶冶をせねばならない。

甲、技能(形式)方面の陶冶

- 1、手の筋肉修練
- 2、正確なる觀察力の修練
- 3、工夫考案推理想像力の修練
- 4、審美的情操の陶冶

乙、智識(實質)方面の陶冶

- 1、形式陶冶に必要なる技能的智識
- 2、工具に關する智識
- 3、材料に關する智識
- 4、物品構成組織に關する智識

研究發表事項 (大内)

而してこの兩者は將來如何なる職業に従事するとしても重要な陶冶であると私は固く信じて居る。特に前者は教育的一般陶冶として非常に大切な部面であると考ひる即ちかく考察した時に手工科が國民教育上重要な科目でなければならぬと信ずるのである

三、勞作に必要な諸徳を顧みることが私は從來少なかつた。

私は清潔・整頓・規律・堅忍・自爲の諸徳は本科から考察すれば製作能力陶冶の手段であると考ひるけれども本科を國民教育上の一科と見る時最も意味の深いことを思ふのである。

四、私は從來本科に依つて次ぎの如き目的をも達することの出来ることを考へることが少なかつた。

- 1、人類天賦の衝動である製作慾を満足させること(特に幼學年兒童に對して)
- 2、製作によつて智識を確實にすること
- 3、廢物利用物品修理等に關すること

これ等は製作能養成の副産物と見ることが至當であると思ふけれども兒童教育上顧慮すべき重要なことであると信ず。

五、約言

以上は義務教育の一教科として即ち尋常科に課する手工科に對して反省したのであるが高等科は余程その意味を異にせねばならぬと考ふる、然しながら現在に見る設備状態に於て課するとするならば高等科も同様の意味合ひによつて課することが寧ろ至當であらう。けれ共それは高等科の手工に對して失望の念慮を増すのみであるから私達は特別教室に於てすることは勿論、それに相應した設備をもなして課する様に努力せねばならないと思ふ。更に要約すれば尋常科は凡ての職業の基礎陶冶を目的とし高等科は特に工業的職業の基礎陶冶を重視する意味に於て法令を解釋すべきことであると思ふ。

第二、私の本科に對する教材觀の反省

從來私は教材(種類並に題目)選擇の場合に目的論から派生した確實なる理論的基礎を考慮することが少なかつた、現在私は次ぎの如く考ひて居る。

一、教材選擇要件

1、物品製作能の養成に適するもの
即ち、手の筋肉練習、觀察力養成、工夫考案力

養成、審美的情操陶冶、工具材料の教授、物品構成に關する智識授與等の諸項に適するもの。
2、兒童の生理的、心理的發達程度に適應せるもの
即ち、兒童の筋肉發達程度、兒童の理解、兒童の趣味等の諸項に合するもの。

3、兒童の實生活に聯絡關係あるもの
即ち、兒童生活(學校家庭)將來の生活、土地の

情況等に關係あるもの
4、學習經濟上適切なるもの
即ち模式的基本的のものにして應用の廣きもの
兒童の學習事項(他教科其他)に聯絡關係のあるもの。

5、工業の趣味、勤勞の習慣養成に適するもの

二、前項の要件より考究して現在私の適當と認むる手工教材の種類。
豆細工、粘土細工、色紙細工(切抜、折紙、組紙の類)厚紙細工(畫學紙、ボール紙)竹細工、木金工。五六年女兒のためには木金工に換ふるに糸細工、布片細工を以てす。

(備考)

各細工は各の材料を主とする意味で各種材料を混用することは寧ろ適當と認むるものである。

三、各細工の各學年配當

1、尋常科男

種別	學年						計
	一	二	三	四	五	六	
豆細工	8	8	7	5			26
粘土細工	5	7	7	5			48
色紙細工		10	8	5			44
厚紙細工			8	8			94
竹細工				10	30		60
木金工					10	30	50
計	13	15	10	15	15	20	

私はこの教材の學年配當に就いては前任校に於て二回、現在の學校に於て二回の變更を試みた、而して私の最も適當と認めて居る案は左の通りである。

(備考)

(1)、一三三四年及び五六年女兒は每週一時間、五六年男は二時間、一年第一學期は第三週より開始とす

研究發表事項(大内)

(2)、數時は時間數を示す。
 2、尋常科女
 四年までは男に全じ
 五、六年は左の如し

種別	學年		計
	五	六	
厚紙細工	15	15	30
竹細工	15	15	30
糸細工	10	10	20
布片細工	15	15	30
計	15	15	30

四、教材排列要件

- 1、兒童の心理的發達に適合すること
 - 2、兒童の生理的發達に適合すること
 - 3、教材相互の論理的關係を追ふこと
 - 4、季節を顧慮すること
 - 5、材料工具の按排に注意すること
 - 6、他教科との聯絡を顧慮すること
- 五、教材題目の選擇排列の實際
 私の本科に對する經驗のうち、最も大なる苦心と反省とを重ね來つたものは左記教授題目選擇排列の實際である、従つて私の發表に對する骨子ともなるべき点も亦この項にあり

第一學期		第二學期		第三學期	
週	教授題目	週	教授題目	週	教授題目
三	火箸、槌	一	梨	一	紙鐵砲
四	彌次郎兵衛	二	卵	二	名刺入
五	眞四角	三	桃	三	鳩
	時數		時數		時數
	種類		種類		種類
	豆細工		粘土細工		色紙細工

第一學期		第二學期		第三學期	
週	教授題目	週	教授題目	週	教授題目
一	樹	一	瓢	一	蟬
二	梯子	二	隨意選題	二	兜
三	橋	三	鳥居	三	紙帶
四	火の	四	ふらんこ	四	暖紙
五	見	五	干	五	紙
六	隨意選題	六	旗	六	紙の
七	子	七	腰掛	七	鍵
八	子	八	椅子	八	の
九	子	九	機	九	の
〇	子	〇	隨意選題	〇	の
一	子	一	隨意選題	一	の
二	餅	二	隨意選題	二	の
三	餅	三	隨意選題	三	の
四	隨意選題	四	隨意選題	四	の
五	隨意選題	五	隨意選題	五	の
	時數		時數		時數
	種類		種類		種類
	粘土細工		粘土細工		色紙細工

研究發表事項(大内)

研究發表事項(大内)	第一學期	週	四	三	二	一	第四學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三									
		教授題目	六角の箱	厚紙裁方	及物研方					隨意選題	インキ瓶	植木鉢	湯呑	茶碗	花瓶	色の配合	吹流	紙の裁方	鯉のぼり	景色										
		時數	二	二						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
		種類	全	細	厚					全	全	全	全	全	細	粘	全	全	全	全	全	全	全							
	第二學期	週	四	三	二	一	第四學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三									
		教授題目	茶器	文鎮					封筒	星形	桔梗	正五角形	正六角形	六角形	菱形	正三角形	隨意選題	箱庭	將盤	動物										
		時數	二	二					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
		種類	全	細	粘				全	全	全	全	全	全	細	色	全	全	全	全	全	全								
	第三學期	週	四	一	第四學年	週	〇	九	八	七	六	五	四	三	第四學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	
		教授題目	繪はかき挟み						小刀の研方	四角箱	三角飾箱	正三角形箱	屏風	棗風																
		時數	四						—	—	—	—	—	—		—														
		種類	細	厚					全	全	全	全	全	全		全														

研究發表事項(大内)	第一學期	週	二	一	第三學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三										
		教授題目	蝶	たんぼ					隨意選題	花瓶	ビールビン	ロソク	角砂糖	文鎮	墨	隨意選題	東家	神輿	街燈	植木鉢	車鉢								
		時數	—	—					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
		種類	全	細		色			全	全	全	全	全	細	粘	全	全	全	全	全	全								
	第二學期	週	二	一	第三學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三										
		教授題目	兔	ダ		ル	マ																						
		時數	—	—					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
		種類	全	細		粘			全	全	全	全	全	細	色	全	全	全	全	全									
	第三學期	週	二	一	第三學年	週	〇	九	八	七	六	五	四	三	第三學年	週	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三
		教授題目	象(立体)	いろくの獸類					隨意選題	風車	長方形	紋形四つ目	正四角	帆船		いろくの旗													
		時數	—	—					—	—	—	—	—	—		—													
		種類	全	細		厚			全	全	全	全	全	全		全													

		第五學年 (女)				第六學年 (男)									
		第一學期		第二學期		第一學期		第二學期							
週	教授題目	時數	種類	週	教授題目	時數	種類	週	教授題目	時數	種類				
五一	手箱	五	細厚工紙	五一	鉛筆入	五	細厚工紙	五一	短くさり編	二	糸細工				
五	三	二	九	八	六	五	三	二	一	五	四	三	二	一	
	小柄杓	六	全		蠟燭立	六	全		板削(木札)	四	木金工		火箸	四	木金工
	紙箋挿	八	全		洋服掛	五	全		渡し網	四	全		本立	六	全
	茶箕	六	全		手拭掛	五	全		押糊籠	六	全			六	全
	墨挟み	六	全		裁定規	四	全			四	全			四	全
	手拭掛	四	竹細工			四	木金工			二	全			二	全

		第五學年 (男)				第六學年 (男)									
		第一學期		第二學期		第一學期		第二學期							
週	教授題目	時數	種類	週	教授題目	時數	種類	週	教授題目	時數	種類				
五一	手箱	五	細厚工紙	五一	鉛筆入	五	細厚工紙	五一	短くさり編	二	糸細工				
五	三	二	九	八	六	五	三	二	一	五	四	三	二	一	
	鉛筆入	四	全		掃除籠	四	全		籾人形	四	竹細工		蝶番蓋小箱	五	全
	狀挿	六	全		菓子箱	二	竹細工		びんせつと	四	全		乃物研	一	全
	紙挟	六	全		粘土突籠	二	全		粘土撫籠	四	全			一	全
	筆立	六	全		押出箱	八	全		とんぼ	四	全			一	全
	手工用箱	八	細厚工紙		葉書入	六	全			四	全			一	全
		八	細厚工紙		ビン入	六	細色工紙			四	竹細工			一	全

第六學年(女)

週	第一學期	第二學期	第三學期
教授題目	紙筆立 紙挾	びん入 葉書入	長編 前三種應用 花瓶敷
時數	五全	五全	一全
種類	五全	五全	七全
週	二	三	一
教授題目	菓子箸 粘土突篋 掃除篋 栞 びんせつこ 手拭掛	つま揚子入 名刺入 守巾着 底附手提	ハンカチユーフ のへり飾編 栞 羽織紐 印入
時數	二全	三全	三全
種類	二全	三全	三全
週	三	四	五
教授題目	五全	四全	三全
時數	三全	四全	五全
種類	三全	四全	五全

第三、私の本科の實際教授に對する反省

一、從來私は本科教授法方法の工夫研究を粗畧にし
た傾きがあつた。

本科が兒童の實習を主とするが爲に教授者は準備さ
へ周到であるならば方法の如きは抑々末である、若
し工夫を要するとするならばそれは兒童學習訓練に

關する方面が重であるといふ様な考ひが心の奥にあ
つた少なくとも他教科に對する態度よりは眞剣でな
かつた、これは甚だしい誤りであつた。本科の如く
に實習する事に依つて得るところの技術即ち形式
陶冶尙それ以外に兒童の心情を陶冶しやうといふた
めには教法の如何によつては全く反對の結果を齎ら
すことの無いとは限らぬ、事實私自身に於てこれら
に強い反省をして居る許りでなく、その様な憾みの
ある教授を見たこともあるから。且つは阿部先生も
其の著書に於て形式陶冶を主とする教科では教材よ
りも教法がより大切であると言はれて居るが誠にそ
うであらねばならないと私は肯かれる。

二、私は成績品過重視の嫌ひのあつたことを反省す
る。
本科が一の表現科であるとするならばその表現され
たこと即ち兒童の成績品を重要視することの大切な
ことは言を俟たないけれ共少なくとも義務教育中の
手工科に於ては彼等の作業中に於ける活動努力に依
つて彼等の心身を陶冶することを主眼とせねばなら
ないと考ひる、勿論結果は同様になるべきことであ
る。

研究發表事項(大内)

るが兒童の製作品の巧拙を最初よりの目的主眼とす
る時には教授に無理の起り易いことは私自身の經驗
よりは慥かに言ひ得る、その無理ある教授の結果は
眞に手工科の要求する目的を逸する許りでなく却
つて諸種の弊害を醸すことを思はねばならない。こ
れは私自身に對する經濟反省許りでなく諸所に開
催される展覽會を見る時痛切に感せられることが多
い、私はこれらの會を觀覽するに當つては最初はその
成績の優秀などに驚くけれ共その如何なる教法に
依つて如何なる設備状態の下に作業せられたかを思
ふ時、幾多の疑問を起すことが常であつたことを考
ひる。それで私は本科に於ては成績品を得るに到る
過程に於ける彼等の麗はしい活動に依つて得る心身
の陶冶をなすことを主眼とし成績品はそれによつて
當然表はれてくる副次的のものであるといふ様に考
ひたい。そこで私は現在成績品に對しても「甲乙丙
丁」「美良可不可」の二種を用ひ、學級全体を標準と
しての成績を考査する場合には前者を用ひ、各兒童
の作業中に於ける活動状態、前回の成績との比較等
を主とする場合には後者を用ふることにして居る。

三、基礎的技能の練習に對する反省

形式陶冶が主である本科の如きは特にこの必要を思ふのであるが私はこれに對する周到な用意と熱心とを缺いたがために基礎的技術の修練をさする場合にはどうも教授に作業に氣乗りがしなかつた、それを私はこの種の事は兒童が欲しないから、心理に合はないからと速断して自分の研究努力の不足を顧みることの少なかつたことは甚だしい誤りであつた。そして私はすぐに品物の製作に入つてしまつてその間に基礎的の練習は出來得ると考ひたが、而かもその場合に於てもやはり前と同様の速断で綿密に指導することを怠つた、これがために最初強く要求してかかつた筈の兒童の趣味に合した製作や工夫創作の修練やば案外に求め得られない結果に陥つたことを反省する「創作は模倣の交叉である」といふことを聞いて居るが製作するにはそれに相當した基礎技術の修練が積まれて居らなければならぬ、即ち教材觀の際に反省したと同様に技術的論理的系統を追ふことは非常に大切なことを經驗から思ふのである。

四、工具の構造用途取扱入手等に關する方面の取扱

を粗略にしたことを反省する。

前項と全様に私達の從來の教法の欠陥から來て居ることと思はれるのであるが兎角兒童は本科の時間と言ひばすぐに製作に取りかゝらうとする、その製作の巧拙の分岐ともなるべき筈の工具の手入取扱等に就いてはどうも眞剣にならない。この種のものを長くやるも兒童は「今日は何もつくらずに過してしまつたつまらなかつた」といふ様な一種の不平らしい色を見ることがあつた。勿論製作する中途に於て工具に對する教授は出來得るのであるけれど、寧ろそれが兒童心理にも合つた方案であらうけれど、その場合に於ける是等の教授も私は従前甚だ粗略に取扱つたことを思ふのである、即ち先の折れた錐を平氣で使用して居たり、小刀のつら／＼する如何にも危険極まる様な竹削りをしたり、或は鎚や鋸も使用方法の拙いがために使用に堪える時間を短からしめたり、弓の様になつた砥石を平氣で使用して居る様な兒童を見たから。

眞によい製作をしやうとするならば是非とも工具の取扱ひを充分にせねばならないことは勿論であるが

特に諸外國に於ては工具の改良進歩が驚くべき程であるのに、我國では更に之等に必を勞するものさへ無いではなからうかと思はるる程改良された工具の少ないことを思ふ際であるから、國家の工藝方面より考慮しても充分の指導を要すること、思ふのである。

五、材料並に製品に關する教授の反省

材料の性質用途並に製品等に關する教授に就いても私は全く前二項と同様の反省をなして居る。目的を論ずる場合には工業の趣味に長じさせるとか、工業常識養成の必要とかを言ふけれど、實際教授に當つては、例へば、ボール紙の箱を作らするにしても、單に店からボール紙や型紙を買ひ入れて箱を作つたといふに止まつて、ボール紙が如何に工藝上使用されて居るか其の價值効用も説かず。實際の工場に於けるボール箱が如何様の手順によつて製作せらるゝものであるか等にも觸れずに教授したことを反省する時如何に用意の不足であつたかを悔えるのである

六、批正に對する反省

批正に就いては、一般批正個人批正相互批正自己批

正等の種別や批正すべき事項等については別に反省を要するとは思はないのであるけれど、私は批正する場合の目的主眼を兒童各兒の批正能力、批判能力の養成指導に置きたいと考ひる、即ち兒童の作業乃至成績品等に於て教授の目的や注意事項等に合しない点があつた場合には「斯うなはしなさい」といふ様なことでなく「こゝはこれでよいが」「なぜ斯うするのぞせう」「これとこれではどちらがよいか」の如くに常に批正指導することが大切であると思ふのであるかくして眞の製作能力の増進を圖り得ること、信ずる。

七、教室に對する考慮

低學年は兎に角高學年の手工科に於ては特別教室でなければ準備、實際の作業、後始末、用具の手入等に於て甚だしい不便を感じる事は今更言を俟たないけれど、現在の縣下の状態では特別教室を有する學校は誠に少ない許りではなく、私の學校に於ても一昨年來特殊の事情から普通教室に於て行はねばならぬものになつたがために、是非とも相當の工夫によつてその欠陥を幾分なりとも補ふことに努力せねばな

らぬことになつた、従つて私自身の工夫反省も数々あるけれ共、この問題が縣下を通じて現在に於ける緊急の研究を要するがために、幸ひ今回の研究会に於ける協議題として嚴密なる研究討議を遂げらるゝことになつたから私は茲に記載することは略する、しかし只一言したいことは本科は教材の如何によつては教室以外の教室即ち運動場、廊下、學校園等が案外に有効に便宜に教授が行はるゝ其のことである特に私の學校には泉あり池あり芝生あり竹林あり廣い學園あり。誠に自然的に兒童の活動を促すに足るべき天地があるので私は粘土板、竹削臺、砥石などを持たしめて何回となくこれらの場所で行つて見たがこの時位生氣ある心底から愉快に努力する麗しい學習状態はあまり見られない程であつた。就中粘土細工の共同製作の場合の如きは各組々思ひ思ひの場所を定めて嬉々として工作に従事する様を見た時はこれが眞に兒童自然の教育であるかと思惟したことが一再では無かつた。

八、製圖其他製作直接の準備に對する考慮
兒童自らが計劃的に仕事をする習慣養成並に作業を

圓滿に進行するが爲には兒童相當の製圖とそれに對する諸種の材料、製作順序等を記載豫定さすことは甚だ大切なことであると反省して居る。例へば「皮刺」を製作するならば

- 1、構造寸法を決定して製圖すること
- 2、材料の種類分量用意する方法等考究記入すること（材は何木でどれ位をどうして用意するか、銅板は、紙は……の如く）
- 3、必要なる工具
- 4、工作順序の考究記帳

等を各自手工帳に記入せしめて製作に取りかゝらしむるは甚だ有効なことであると思ふのである。しかしながらこれがためには、教授者は最も周到なる準備の下に行はなければならない。時間の不經濟、教授の混亂を來す恐れのあることを思はねばならない。

結 論

當然廣汎になるべき表題であるといふことは豫期して居つたのであるけれ共、實際記述に及んでは際限もなく反省されてくる、そして私の責任感は一層痛切に私に鞭撻を加へて居る、それであるがために茲

に記述したことは私自身に採つては特に苦い經驗が主になつて居る、元來この教育事業が功を急速に求め得ない性質のものである以上其所に又微かながらも内に善び得るものが無いでもない、低學年兒童に對する取扱、共同製作、高三女兒の手工の如きは稍々嬉しい部面の多い經驗の様である、然し乍ら紙數にも制限があることであるからそれ等に就いては略することにした、特に高等科の手工に對して全然筆を染めなかつたことは如何にも必残りのすることであるけれ共これは縣下を通じて課されてある學校が僅少であるといふことを思ふたがためである。斯く題目に對する内容の遺憾を思ふ時、表題の變更を

の感も起つたのであるけれ共、この上もない好機會であるから出來得る限り多方面に就いての御批正を得ることは懸て私の經驗をより一層有意義ならしむることは勿論且つは各位に研究資料をより多く提供することにもなるからと思つて稿を續けたのである。願へば私の經驗は敢て短日月といふべきでは無いけれ共日々の教授に對する工夫と反省とに遺憾があつたがために眞に意義ある經驗を積んだと言ふことは出來ない、衷必慚愧に堪えない次第である。さりながら斯うした機會が經驗の一領である以上各位の御批正御鞭撻に依つて今後一層強い工夫と反省とを積まうとするのである。

三二、我が校にて採用せる手工教材と其の設備

茨城縣師範學校訓導

鴨志田富之介

- 一、教材の選擇
- (一) 手指の練習に適せるもの
 - (二) 工夫考案力養成に適せるもの
 - (三) なるべく多種の材料及び工具の性質用法等を知

研究發表事項（鴨志田）

- (四) 工業の趣味を養ふに適せるもの
- (五) 勤勞の習慣を養ふに適せるもの
- (六) 兒童の趣味に適せるもの

計	豆細工	粘土細工	折紙	切貫細工	畫學紙細工	ボール紙細工	竹細工	竹木細工	編物	尋	
										1	2
三	六	一	五	一						1	尋
一五	七	三	五	一						2	1
一〇	〇									3	1
一五	七		八							1	尋
一五	六		九							2	2
一〇			〇							3	1
一五	七		八							1	尋
一五	七		八							2	2
一〇			四	六						3	3
一五	七		八							1	尋
一五	六		五	二	二					2	2
一〇			〇							3	4
三〇	一六		四							1	尋
三〇			一五							2	5
三〇			一五							3	男
三〇										1	尋
三〇										2	6
三〇										3	男
三〇	六		二	四						1	尋
三〇	〇		八							2	5
三〇			三							3	女
三〇			一五							1	尋
三〇			一五							2	6
三〇										3	女
317	六		四	六	六					1	男
317	六		四	六	六					2	女

備考

- (一) 各學期各細工の数は時間数を示す
- (二) 尋常科第四學年迄は毎週一時五學年以上は男女とも毎週二時とす。
- (三) 縣下の状況は高等科に加設し居るもの極めて少數なるにより尋常科のみを掲げたり。
- (四) ボール紙細工中には布片の細工をも含む。

二、製作品の選定

- (一) 正確なる技術の練習に適せるもの。
- (二) 工夫考案の餘地多きもの。
- (三) 兒童身心の程度に適せるもの。
- (四) なるべく多種の材料工具を用ふるに適せるもの。
- (五) なるべく兒童の生活並に實生活に利用し得らるもの。

三、教材排列

- (一) 低學年に於ては兒童の心理的要求を主として論理的關係を顧慮し高學年に於てはなるべく論理的關係を主とし兒童の心理的要求を顧慮したり。
- (二) 季節と細工の種類との關係を顧慮したり。
- (三) 教室使用上の都合を考へて排列したり。
- (四) 選擇排列したる教材の實際

尋常科第一學年 第一學期

週	細工の種類	製作題目	時間數
四	豆細工	火箸と曲尺	
五	全	眞四角と机	
六	全	箱	
七	全	梯子 附彌次郎兵衛	
八	全	渡り梯子或は火の見	
九	全	着物干竿	
一〇	折紙	物干竿	

研究發表事項(鴨志田)

第二學期

週	細工の種類	製作題目	時間數
一	粘土細工	毬と卵	
二	全	供餅	
三	全	環燭	
四	全	蠟燭	
五	全	餅、瓢、桃の中隨意	
六	全	自由製作	
七	全	大根或は人參	
八	折紙	自由製作	
九	全	奴風……鯉船	
一〇	全	鶴	
一一	切貫細工	紙帶	
一二	全	暖簾	
一三	全	風の尾	
一四	全	鎌	

二 一 全	尋常科第二學年 第一學期	一 豆 全	二 炭 全	三 家 全	四 腰 全	五 自由 全	六 押 全	七 飛 全	八 御 全	九 自由 全	一〇 全	(補充教材)	第三學期	一五 全
		梯子	國旗	三角柱	家掛	自由製作	押風車	飛行機	御輿	自由製作	車類。建物類。机。			鳥居。門。建札

四 三 二 一 全	尋常科第三學年 第二學期	一 粘 全	二 粘 全	三 粘 全	四 粘 全	五 粘 全	六 粘 全	七 粘 全	八 粘 全	九 粘 全	一〇 粘 全	一一 粘 全	一二 粘 全	(補充教材)	第三學期	三 一 四 全
		吹流	正方形及び二等邊三角形を以て模様の考案	旗	花と葉	釘貫。入り樹。蝶。洋傘	文鏡	階段	壘	胡瓜	自由製作	茄子	達磨			自由製作

二百二十四

九 七 五 三 一 全	尋常科第二學年 第三學期	一 切 全	二 切 全	三 切 全	四 切 全	五 切 全	六 切 全	七 切 全	八 切 全	九 切 全	一〇 切 全	一一 切 全	一二 切 全	(補充教材)	第三學期	一五 全		
		置物臺	自由製作	ペンとコップ	長方形	長方形練習	正方形	色紙袋	紅葉模様	雪達磨	同立体	自由製作	紋形。雞。千鳥			交叉せる國旗	萬國旗	風車

研究發表事項(鴨志田)

一 二 全	尋常科第三學年 第一學期	一 粘 全	二 粘 全	三 粘 全	四 粘 全	五 粘 全	六 粘 全	七 粘 全	八 粘 全	九 粘 全	一〇 粘 全	一一 粘 全	一二 粘 全	(補充教材)	第二學期	二 粘 全
		小刀用法	紙の裁方	同	小刀の研方	色の配合標本	草花	櫻花。風景。	茶碗	貝殼	石燈籠	自由製作	蕃椒			花瓶

二百二十五

三〇全	九全	八全	七全	五〇全	三〇全	一〇全	九全	八全	七全	六全	五全	四全	三全	二全	一全
切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工
筆洗	銅像或は紀念碑	果物寫生	自由製作	郵便箱。靴。葦	正三角形	菱	六角菱	麻の葉或は散子繫	正五角形	軍艦。帆船。星章	飾箱	提箱	屏風	厚紙裁方	全
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

三〇全	九全	八全	七全	五〇全	三〇全	一〇全	九全	八全	七全	六全	五全	四全	三全	二全	一全
切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工
筆洗	銅像或は紀念碑	果物寫生	自由製作	郵便箱。靴。葦	正三角形	菱	六角菱	麻の葉或は散子繫	正五角形	軍艦。帆船。星章	飾箱	提箱	屏風	厚紙裁方	全
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

九〇全	二〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全
切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工
組紙	小箱(被蓋)	日曜表	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全	一〇全	五〇全
切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工	切貫細工
組紙	小箱(被蓋)	日曜表	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿	家屋形容器	繪ハガキ入	狀挿
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

研究發表事項(鴨志田)

尋常科第六學年 (男)		第一學期	一—三 竹木細工 四—七 全 八—二 全 三—五 全 (補充教材)	玩具。突貫。 植木鉢臺 帽子掛 鉛筆削箱 混色ごま。皮ひき	八 八 八 六
第二學期		一—三 竹木細工 四—五 全 六—九 全 一〇—三 全 三一—五 全 (補充教材)	ポンプ類 状差或は墨挾 筆立 凧揚 杵 凧揚 杵 虫籠。桿秤。挺子。	六 六 八 四 六	
第三學期		一—五 竹木細工 六—〇 全	本立 自由製作	一〇 一〇	

尋常科第五學年 (女)		第一學期	一—二 切貫細工 三—五 ボール紙細工 六—九 全 九—二 全 一—二 切貫細工 三—五 ボール紙細工 (補充教材)	模様型紙 繪ハガキ挾(縫取裝飾) 手提カバン(裝飾同) つま揚子挾 草花 自由製作	四 六 七 五 二 六
第二學期		一—二 切貫細工 二—三 全 四—五 全 六—九 ボール紙細工 一〇 竹細工 一一—三 全 一二—三 全 一三—四 全	建物 風景 風景 筆立 塵はたき 衣紋掛 角箸 丸箸	三 三 四 八 二 三 二	

二百二十八

尋常科第六學年 (女)		第一學期	一—四 ボール紙細工 五—六 全 七—〇 全 (補充教材)	六角形ピン入 手箱 自由製作 方形菓子器。植木鉢圍	八 四 八
第二學期		一—二 編物 三—四 全 五—八 全 八—九 竹細工 九—三 全 一〇—五 全 (補充教材)	圓筒 古箱利用 竹ペン 玩具突貫 体操人形 筆入。琴瓜入。	八 七 三 八 四	
第三學期		一—四 全 (補充教材)	栗 竹蜻蛉	三	

研究發表事項 (鴨志田)

- 五、用具設備の實際
- (一)豆細工。
1、個人用。喰切(現在は使用せず將來は使
用せしむる見込)
2、共用。 |
3、教師用。 井
- (二)粘土細工。
1、個人用。 粘土籠。濕布(手拭半裁一本)
粘土板(兒童製作)
2、共用。 半製品入箱(一)
3、教師用。 粘土貯藏甕(一)兒童用具一組。
- (三)折紙。
1、兒童用。 練習用紙。
2、教師用。 教授用紙。
- (四)切貫細工。

二百二十九

- 1、個人用。唐挾(一) 切出小刀(一) 尺(一) 度(一) コンパス。三角定規。裁板。裁定規
- 2、共用。青砥(一〇)
- 3、教師用。示範用唐挾(一) 切出小刀模型 大形三角定規。同コンパス。兒童用具一組。
- (五) 厚紙細工(ボール紙、書學紙兩種を含む)
 - 1、個人用。切貫細工用全部。
 - 2、共用。糊刷毛(五) 鳩目しめ(二) 打抜各種。丸棒(二〇) 燒燬(裁縫兼用) ボール押切(一) 膠鍋(一) 涼爐(一) 青砥(一〇) 仕上げ砥(八)
 - 3、教師用。大形裁板(一) 同裁定規(一) 裁庖丁(一)
- (六) 竹細工。
 - 1、個人用。切出小刀。尺度。
 - 2、共用。四ツ目錐(二〇) 鼠齒錐(二〇) 竹挽鋸(九) 竹割鉋(一) 丸砥(一) 金剛砂砥(二) 青砥(一〇) 仕上げ砥(八)
 - 3、教師用。
- (七) 木工。
 - 1、個人用。鉋(一寸三分) 尺度。三角定規 コンパス。
 - 2、共用。木槌(二〇) 三ツ目錐(五) 四ツ目錐(二〇) 壺錐(二〇) 横挽鋸(一五) 縦挽鋸(五) 廻挽鋸(一〇) 胴着鋸(四) 鐵槌大(二〇) 同小(一〇) 鑿(二分厚、二分向待、四分厚、五分向待、一分鎚) 直角木口臺(一〇) 曲尺(一〇) 直角定規(二〇) 下端定規(五) 筋野引(五) 割野引(二) 釘拔(一) 臺直鉋(二) 木製取付万力(二)
 - 3、教師用。平鉋(上仕工、中仕工、荒仕工各一) 際鉋(二) 溝鉋(一) 裏押(一)
 - (八) 工(針金、ブリキ兩細工を含む)
 - 1、個人用。喰切。ヤットコ。
 - 2、共用。ベンチ(三) 金切鉄(一八) 手万力(五) 大鐵(荒目、中目、油目) (三角、丸、半丸、角) 小鐵(三組) 手廻錐(一) ブリキ押切(一) 半田鋸(一五) 折臺(五) 折木(五) 木槌(二〇) 曲棒(二〇) 鐵砧(長方形五、角五、丸、五) 木口臺(一〇) 野書針(一〇)

金工用コンパス(一〇) 打抜(三) 取付万力(五)

3、教師用。特別になし。
備考 (一)各工具は數年前に備ひたるもの少からず従つて價格の變動は着しきものあるべきを思

三三、農村化したる手工教材に就いて

筑波郡田井尋常高等小學校訓導

櫻井兼助

現代教育の主張は實用を重んじ實行に訴へ實地に練習せしむるにより或は戦後の教育といひ或は戦前の經營といひ社會の要求亦こゝにあるは當然のことなりと信ぜり實生活に關係深き手工科の如き技能に屬する學科は殊に然りとす。さりながら小學校に手工科を課するの目的は敢て事門家を作るにあらず一般陶冶を重んじ目と手との練習を積み工業的智識を與へ職業化する處の萌芽を培養し卒業後社會に於ける實生活の準備をなすにあるのみ、故に本科の教授に於てはその教材の種類を選定するに當りては先づその地方の生産業に對して他日此等の保助ともならん

研究發表事項 (櫻井)

ひ茲に掲げず。
(二)各工具の下の數字は個數を示す。
(三)金工は尋常科には課せざれども參考の爲め其の工具のみを掲ぐる事とせり。

とするの儀に留意し、この方面に關聯して教材を擇び以て將來その事業に従事するの便を計り且つ之れに努力し物品製作の能と意匠の力を養へ工業的趣味及び勤勞確實綿密等の習慣を涵養し置くは本科の教授をして益々實用的ならしむる上より見ても又郷土の産業獎勵の上より見ても甚だ必要なること、信ず元來私の學校は純粹の農村にありて正式に手工科を加設せず、故に設備もなければ準備も完かならず、唯本科の教育的價值を認めて止まざれば時間外に於て又は圖書家事農業等に連絡してその教授時間又はその一部を殺して僅かに之れを課するに過ぎず随つて

教材も成るべく簡易なるものを選び土地の状況に鑑み家庭に適合する考にて教材選擇の標準を定めて次の如くす

- 一、製作原料の得易きもの
 - 二、地方産業に關係あるもの
 - 三、他教科との關係あるもの
 - 四、兒童の趣味を起すもの
 - 五、兒童及び家庭に於て使用し得るもの
- かくして教材は基本的のものを選び其多からんよりは寧少きを旨とし只偏に練習を多からしむることに努めて教授要目を定むること次の如し

尋常科第三學年	種別	教材要目
第一學期	粘土	球、卵、圓柱、角柱
第二學期	全	果、實
第三學期	折紙	提灯、船、鶴、兜
尋常科第四學年	種別	教材要目
第一學期	粘土	皿、花鉢、筑波山
第二學期	折紙	熨斗、鹽包
第三學期	切抜	四ツ目、櫻花、桔梗
尋常科第五學年	種別	教材要目
第一學期	紙細工	小撚、觀世撚、袋の張方

第二學期	葉細工	細繩、太繩
第三學期	竹細工	箸、糊籠、朶
尋常科第六學年	種別	教材要目
第一學期	竹細工	狀刺、粘土籠
第二學期	葉細工	簇、春、養蠶網
第三學期	全	草履
高等科第一學年	種別	教材要目
第一學期	竹細工	竹箒
第二學期	全	熊手
第三學期	葉細工	俵、棧俵
高等科第二學年	種別	教材要目
第一學期	全	練習
第二學期	全	練習
第三學期	全	練習

而して手工科教授の尊重すべきは創作力の養成にあれば模倣製作の場合と雖も教授者は常にこの點に留意せざるべからず決して最初より超越した考案意匠を望むにもあらず要するに兒童の個性を觀破し之れを善良に補導して各方面に働かしめ以て工夫考案を練り他日發見發明の素地を涵養すると同時に粗製濫造の弊を矯めることに注意す

協議題の部

教材も成るべく簡易なるものを選び土地の状況に鑑み家庭に適合する考にて教材選擇の標準を定めて次の如くす

- 一、製作原料の得易きもの
 - 二、地方産業に關係あるもの
 - 三、他教科との關係あるもの
 - 四、兒童の趣味を起すもの
 - 五、兒童及び家庭に於て使用し得るもの
- かくして教材は基本的のものを擇び其多からんよりは寧少きを旨とし只偏に練習を多からしむることに努めて教授要目を定むること次の如し

尋常科第三學年

學期	種別	教材要目
第一學期	粘土	球、卵、圓柱、角柱
第二學期	全	果、實
第三學期	折紙	提灯、船、鶴、兜

尋常科第四學年

第一學期	粘土	皿、花鉢、筑波山
第二學期	折紙	熨斗、鹽包
第三學期	切抜	四ツ目、櫻花、桔梗

尋常科第五學年

第一學期	紙細工	小燃、觀世燃、袋の張方
------	-----	-------------

第二學期	蕨細工	細繩、太繩
第三學期	竹細工	箸、糊笥、棗

尋常科第六學年

第一學期	竹細工	狀刺、粘土篋
第二學期	蕨細工	簇、舂、養蠶網
第三學期	全	草履

高等科第一學年

第一學期	竹細工	竹箒
第二學期	全	熊手
第三學期	蕨細工	俵、棧俵

高等科第二學年

第一學期	練	習
第二學期	全	
第三學期	全	

而して手工科教授の尊重すべきは創作力の養成にあれば模倣製作の場合と雖も教授者は常にこの點に留意せざるべからず決して最初より超越した考案意匠を望むにもあらず要するに兒童の個性を觀破し之れを善良に補導して各方面に働かしめ以て工夫考案を練り他日發見發明の素地を涵養すると同時に粗製濫造の弊を矯めることに注意す

協議題の部

第四、協 議 題

普通教室に於て手工科を課する場合最も適切なる施設

一、設備すべき工具

(一) 児童個人用。(一學級兒童數標準)

- イ、定規類。竹尺(一尺) 三角定規(六寸) コンパス。裁定規。厚さ定規。
- ロ、刃物類。切出小刀(尋三以上六分) 鋏(尋一より) 喰切。小鋸(高學年 一寸三分)

- ハ、細工臺。粘土板。竹削臺。裁板。直角木口臺。机大の板を以てする机上用細工臺。坐業用細工臺。
- ニ、其他。粘土篋。木槌(徑一寸五分) 濕布。編物用針。

(二) 共用

- イ、刃物類。ボール押切。切抜數種。竹挽鋸。竹割鉋。鼠齒錐。四ツ目錐。三ツ目錐。壺錐。横挽鋸。(普通大) 縦挽鋸(全上) 廻挽鋸。金切鋏。鑿(厚、向待、格子工)
- ロ、研磨用。研場。 1、廊下教室の一隅等に置き必要に應じ移動し得べき一間位の流し。 2、砥石壹個宛を入れ水も入れ得べき箱
- 砥石。荒砥。金剛砂砥。青砥。仕上げ砥。名倉砥。
- 鏝。大鏝。(荒目。中目。油目) 目立鏝。紙鏝
- バケツ。

- ハ、握持器。火鉗。手萬力。木製萬力。釘拔。
- ニ、定規類。曲尺。直角定規。筋野引。

ホ、打撃器。木槌。鐵鎚(大、小)

ヘ、糊付用。糊刷毛。撫刷毛。

ト、細工臺。堅牢むる物を設け烈しき仕事に使用せしむべきこと。

チ、雜。燒鏝。粘土窯。粘土貯藏甕。鳩目しめ。涼鐘。折臺。折木。染色鍋。半田鏝。

(三) 教師用

イ、刀物類。大形唐鋏(約八寸) ペンチ。裁庖丁。臺直し鉋。際鉋。鑿(一分シノギ、四分薄) 平鉋(上中、荒三種)

ロ、雜 井若しくはバケツ。大形裁板。同裁定規。呼鈴。救急用品。製圖用具。

二、設備すべき教具

(一) 標本類

イ、細目に準據したる製作品。

ロ、兒童成績品。

ハ、示範説明用未製品並びに工具模型。

ニ、工藝材料及び製品類。

ホ、理科的玩具。

(二) 圖表類

イ、工藝品。工場等を示せる掛圖。

ロ、圖案參考掛圖。

ハ、用具使用法を示せる掛圖。

ニ、工作圖類。

(三)

其の他 大形三角定規。同コンパス。同丁字定規。染分紐。

三、工具及び材料の處理

工具一覽表を調製し置くべきこと。

各工具には名稱番號を附すべきこと。

工具戸棚にも名稱番號を附して置場所を一定すべきこと。

日常使用すべきものと折々使用する物とを區別しかくべきこと。

運搬に便利なる工具入箱を作るべきこと。

砥石の修理は兒童に當番を定めかきてなさしむべきこと。

大修理は職人になさしむる外なし。

材料は適當なる戸棚を作りて整頓しおき出入に便ならしむべきこと。

粘土の如き物には石炭酸(五十倍)を加へ豌豆の如きは收穫時に購入しナフタリンの少量を入れ置くこと

四、材料の供給方法

(一) 共同購入によるもの。

1、前以て費用を徴集しかくもの。

2、學期もしくは學年の終に於て決算の上費用を徴集するもの。

兒童各自に購入或は準備し來らしむるもの。

購入困難の恐あるものは共同購入をなし然らざる物は各自に購入せしむるもの。

消耗品は校費負擔とするもの。

取次商店と特約し各月の配當表を與へおき準備せしむるもの。

(五)(四)(三)(二)

- (六) なるべく廢物利用をなさしむべきこと。
 傘用の本竹。密柑箱。石油箱。折箱の如きもの利用。
 低學年には該時間必要の材料のみを與へ高學年に至るに従ひ該製作品所要の材料全部を與ふ。
 兒童保護會或は購買組合を組織して購入供給をはかるもの。
 材料供給係主任を置き各學級よりの請求により配付し學期末に費用計算の上主任より各學級に通知し各學級は兒童より徵集す。
- (九)(八)(七)

購求簿用紙

尋常科第何學年何組 男、女 受持氏名

月	日	畫用紙	色紙	豆	織	ボール紙	模造紙	其他	備考

五、準備後始末等に於ける兒童作業の方法範圍

- (一) 工具準備指導板を利用し兒童當番をして準備せしむ
 兒童當番は數名とし輪番になさしむ。
 當番をしてなさしむべき作業
- (二)
- 1、工具材料の配布。
 - 2、用具の個數調査及び其の手入。手入は前以て知らしめおく。
 - 3、教室掃除。
 - 4、研磨其の他用としての水準備。
 - 5、翌日の準備は其の日の教課後になさしむ。
 - 6、教具の製作も品物によりてなさしむ。

年	學	第	學年	月	日	曜
			工名			
			具稱			
			數量			

大正八年六月二日印刷
大正八年六月五日發行

(非賣品)

茨城縣小學校聯合教授法研究會

茨城縣師範學校附屬小學校

右代表者 若月秀吉

茨城縣水戸市上市元白銀町一五二番地

印刷者 藤田要之介

茨城縣水戸市上市元白銀町一五二番地

印刷所 藤田印刷所

終